

CONTENTS December 1997 vol.1

まちに待った 会報発行にあたって

C O N T E N T S

聖陵特集 懐かしの厨川校舎はいま	2
教職にある卒業生との懇談会	2
トピックス 学園祭	3
あの人 この人	3
インフォメーション聖陵	4



盛岡大学聖陵同窓会会长

千葉 孝之
(第1期生)

同窓会報「聖陵」発行にあたって

同窓会員の皆様におかれましては、益々ご活躍のことと拝察いたしております。

我が同窓会は、今春第十三期生を迎える会員数も四千二百二十八名までとなりました。会の活動も平成六年十月の名簿発刊に続きこの度の会報発行と、微力ながら大きな目標に向かって少しずつ行っているところであります。この会報発行を一つのステップに、これからも様々な形で母校のためのバックアップをしていきたいと考えておりますので、会員の皆様のご理解と絶大なるご支援を今後とも宜しくお願いいたします。最後になりましたが、今後の盛岡大学の発展と、会員の皆様の益々のご活躍とご健勝を祈念いたしまして、「同窓会報発行の挨拶」とさせていただきます。

聖陵

盛岡大学聖陵同窓会報

1997.12 Vol.1

発行者

盛岡大学聖陵同窓会

事務局

〒020-01 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字砂込808

盛岡大学内

TEL 019-688-5555



盛岡大学砂込校舎 現在学生総数1544名

懐かしの厨川校舎はいま

昭和五十六年に開学した盛岡大

学の校舎は、今は盛岡大学附属高

等学校の生徒達が使っています。

本校舎は老朽化がみられるもの

の、補修工事を繰り返しながら使

用されています。普通教室は主に

普通コース・体育進学コースの教

室として使用されています。階段

教室の206はアセンブリルーム。

306は第一音楽室。四階の研究室は第

二音楽室や生徒会室等になっています。

また、図書館一階は盛岡大学・盛岡大学短期大学部図書館の蔵書保管場所として残っていますが、

二階は特別進学コースの教室となっています。

音楽室だった第十一校舎は、一

階が調理実習室で、二階は美術室

となっています。

学友会室があつたプレハブ（昭和六十年頃までは『みゆき』とい

う茶店もあつた建物）と厨川幼稚園

園庭、プールは第一体育館とな

りました。

資料館は、（私が学生だった頃、

中に入つてみたことはありません

でしたが、資料館というプレート

がついていたように記憶していま

す）平成七年に取り壊され第二体

育館が建ちました。

生活会館も今は十階建ての盛岡大学学生会館となり、ワンルームマンションという感じの寮に生まれ変わりました。

とにかく、厨川校舎のある敷地

は余す所なく利用されています。

盛岡大学及び短期大学部の寮生や

厨川幼稚園の園児、そして、五百

人ほどの高校生の笑い声が、絶え

ない環境にある現在です。第一回

卒業生から第九回卒業生の皆様

に、少しでも思い出していただけ

たら良いのですが…。

（川村匡世 第四期生）



懇親パーティの席で、「いわてTOYP大賞」に輝いた横橋円さん（第10期生）に高橋学長から記念色紙が贈呈された。横橋さんは在学中からチャレンジし続け、ついにサッカーの2級審判員となった方です。

「社会人になっても特技を生かして自分をアピールして欲しい。」と挨拶、同席の在校生的良好な刺激となったようだ。

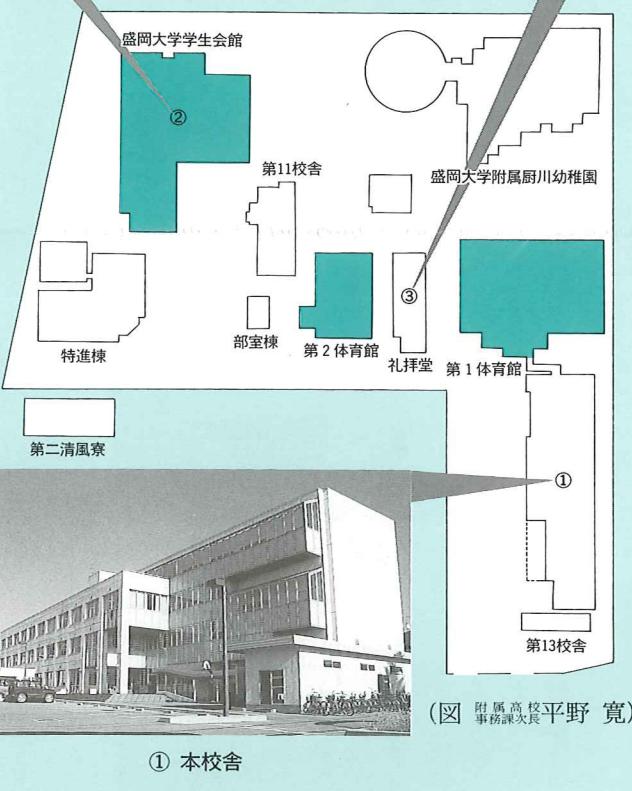


② 学生会館



③ 礼拝堂

盛岡大学附属高校 構内図（グリーンに配色してある部分が新築です。）



教職にある卒業生との懇談会

平成9年11月8日（土）13時より、「第3回教職にある卒業生との懇談会」がホテルリッチ盛岡で開催されました。教職にある卒業生、ハートケア教育相談ボランティアの在校生、それに教職員を合わせておよそ60名余りの出席者のもと盛大に行われました。

第1部の懇談会では、高橋学長の挨拶の後、「相談室から見た児童・生徒の今」というテーマのもと、山崎 武彦教授、梅本 信章教授、春日 菜穂美助教授のカウンセラーの先生方と岩泉小学校教諭・佐々木 よしえさん（第10期生）のパネルディスカッションが行われ、教育相談・生徒指導についての活発な質疑応答がおこなわれました。

第2部の懇親パーティは、久慈 次男新理事長の紹介と挨拶の後、聖陵同窓会副会長・高橋 修さん（第2期生）の乾杯で、和気藹々とした雰囲気で始まり、談笑の輪があちこちにできました。前教職指導研究室長の佐藤 晋先生、三松 政志先生の顔も見られました。この懇談会が今後同窓会の下部組織として活躍することを期待するとともに、来年の再開を期して幕を閉じました。

（学生部長 日景敏夫）

TOPICS

学園祭

今年で第16回を迎えた盛岡大学聖陵祭は、10月25日、26日に短期大学部聖華祭と同時に砂込キャンパスで行われました。

開催に当たり、10月19日恒例の仮装行列を行い、今年は岩手大学、富士大学の学園祭実行委員と合同で、県立盛岡短期大学学園祭にお邪魔をし、実行委員の激励と学園祭のPRをさせていただきました。その後肴町アーケードから大通り経由で盛岡駅までのコースを100余名が、思い思いの（実行委員はセーラー服のプリティな？女装多し）仮装で練り歩きました。タウン情報誌に情報を掲載してもらい、3日間で約700名の来場者がありました。学園祭の模様は、ラジオと新聞にも取り上げられました。

今年のテーマは「聖陵感」。学園祭に来場されたお客様に爽やかな風が吹くように、また、爽やかな、スッキリとした感覚を持ってお帰りいただこうとの想いからこのテーマが生まれました。

学園祭を振り返りますと、昨年来メディアで報道されているように病原性大腸菌O-157等による保健所の指導の厳しさもあってか模擬店の数が減少しましたが、学内有志団体の展示発表は年々数を増し活発な活動を行っています。今年は、盛岡大学後援会の助成を頂戴し、学園祭保険に加入し、万が一の事故に備えました。また、「10年後に大きなイベント」を企画できるように、実行委員会予算の残額の一部を積み立てる制度を作り、後輩に我々の夢を託します。

卒業生の皆さんにも今後の聖陵祭にご支援、ご協力ををお願いいたします。

聖陵祭実行委員長 鈴木 敦
(児童教育学科3年)



軽音楽の野外ステージ



伝統の仮装行列（上・下）



大教室で、何時も中央七列目あたりに常連の三人がおり、真ん中の学生が肯いたり、声をだしたりするので話し合うようになつた。小田原から未だ学生で宿所が近く、何かと接することも多かつたようだ。右側に座っていた秋田人は、毎朝、図書館の玄関の前でボクシングの練習をしていた。研究室が図書館の二階にあつた関係上、七時四十分頃（途中、起きねばならぬ学生がいたので）声をかけて励ました。この三人とはしばしば夕食を共にするようになつていた。日文一回生の担任でもあつたから、何とか接する機会を

多くしようとして、花見とか博物館巡りをやつたが、平成元（一九八九）年以降は、球技大会兼カラオケ大会と野外バーベキューを休日に行つたが、以後毎年春秋二回地元の人々とともに持つようになり、盛んな時には百六十名にも達した。同じコーポだというので卒業生も加わってくれていて、教・英米の学生も参加しているし、三学科にはそれぞれ学会があり、卒業生も会員であり、これが学科の同窓会でもあるのだから、毎年必ず会費を納入し、学会総会に同窓会を、前後にクラス会を持つようにしたいものだ。（上木永生先生）



筆者・左から4番目元日本文学科長 上木永生先生

あの人この人

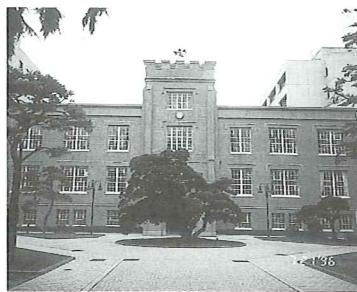
いつもお世話になっている生協のおばさんたち。永遠に変わらぬ爽やかな笑顔と温かいハートで学生のおなかと心を満たしてくれています。ありがとうございます。



上段 佐藤登代子さん 菅野勉子さん ハッ役桂子さん 野々山カヨ子さん
村上俊一さん 森明子さん 高橋光代さん 早坂竜子さん 芳賀芳絵さん 山本和子さん
中段 地主良子さん 松崎美枝さん 柳村弘子さん
下段 伊藤房子さん

インフォメーション聖陵

同窓会活動報告



東北学院大学



明治大学校友会



同窓会生専用カード（北海道大学）

現在、盛岡大学学友会や図書館への助成など事業活動をしておりますが、今回は平成八年度に行われた他大学同窓会視察事業について報告します。

創立間もない当同窓会は、

支部の組織、同窓会館の建設

など漠然とした構想はありな

がら、正直なところその運営

は手探り状態であります。そ

がため、実際に他大学の同窓

会の運営状況を視察し、そこ

から当同窓会の方針を見出だ

すことを目的としてこの事業

が始まりました。

盛岡大学等に勤めている同

窓生が三班に分かれ、東北、

北海道そして東京と各地域三

五大学を訪問し、同窓会の

運営状況その他の他等について

を伺いました（写真左中央）。

今回は、行数も限られています

ので概要にとどめます。

各大学とも多少の差はある

が、同窓会の事務局は主に大学の

職員が運営にあたり、大学の

部活動や記念行事などに助成

を行っております。また講演

会や謝恩会の企画、卒業・入

学時に記念品の贈呈を行つて

いる同窓会もありました。

会費は、一括して終身会費

を納入する方式の同窓会はと

もかく、年会費として毎年納

入しているところでは集金率

が殆ど20%前後でした。

さて、多くの大学の協力を

得た視察事業を終え、当同窓

会報発行を含め盛岡大学聖陵

同窓会の事業の活性化を図つ

て行きたいと思いますのでよ

ろしくお願ひします。

現に、盛岡大学学友会や図書館への助成など事業活動をしておりますが、今回は平成八年度に行われた他大学同窓会視察事業について報告します。

創立間もない当同窓会は、支部の組織、同窓会館の建設など漠然とした構想はあります。が、正直なところその運営は手探り状態であります。そのため、実際に他大学の同窓会の運営状況を視察し、そこから当同窓会の方針を見出だすことを目的としてこの事業が始まりました。

盛岡大学等に勤めている同窓生が三班に分かれ、東北、北海道そして東京と各地域三五大学を訪問し、同窓会の運営状況その他の他等についてを伺いました。今回、行数も限られていますので概要にとどめます。

各大学とも多少の差はあるが、同窓会の事務局は主に大学の職員が運営にあたり、大学の部活動や記念行事などに助成を行っております。また講演会や謝恩会の企画、卒業・入学時に記念品の贈呈を行つている同窓会もありました。

会費は、一括して終身会費を納入する方式の同窓会はと多く、年会費として毎年納入しているところでは集金率が殆ど20%前後でした。

さて、多くの大学の協力を得た視察事業を終え、当同窓会報発行などを事業の中に組み入れ、大学と同窓生との橋渡しをする

ような方向で同窓会の活動を開いていきたいと考えております。

聖陵同窓会は、平成五年度より実質的な事業活動を開始し今年度に至っております。

事業活動は、現在のところ長期的な活動と単年度的な活動の二本立てになっています。前者の活動としては、同窓会館（仮称）的なものの建設を考えています。そのため財政基金を設け積み立てを行っています。後者の活動としては、役員会の開催、年度毎の卒業生名簿の作成、大学への寄付事業等になります。以上が下の会計報告の事業費・事務費の部分になります。

事務局から

平成8年度 聖陵同窓会一般会計決算報告書

(平成8年4月1日～平成9年3月31日)

収入の部(款)		支出の部(款)			
項目	予算	決算	項目	予算	決算
繰越金	1,170,524	1,170,524	事業費	1,749,717	1,127,685
会費	4,970,000	4,940,000	事務費	180,000	67,908
雑収入	83,759	97,695	財政基金	2,000,000	2,000,000
合計	6,224,283	6,218,219	予備費	2,294,566	0
			繰越金	0	3,022,626
			合計	6,224,283	6,218,219

情報ください

聖陵同窓会は、同窓会報に皆様からの情報・要望を反映させたいと考えております。

- 聖陵同窓会報の正式名称募集。
- 同窓生の活躍、動向等（特に他県）の情報、本人、友人は問いません。
- 会報の内容に関する要望、意見。
- お世話になった方々のお名前、エピソード、又、あの人、この人で紹介して欲しい人のお名前。
- 同窓会への要望・意見。
- 会報を通じて同窓生に知らせたい情報（伝言板）。
- 現在の大学に関して聞きたい、知りたい。（クラブ・サークル活動等）

なるべく多くの情報を取り上げたいと思いますが、紙面の都合上、皆様の要望に答えられない場合があることをあらかじめ御了承下さい。

編集後記

やっと出来た創刊号です。青春時代のあの4年間と今を行ったり来たりしながら、試行錯誤のうえ完成に至りました。あの時いつしょに笑ったり泣いたりしたあの仲間は、今頃どこで何をしているのだろう。そんなことを思いながらの編集でした。生まれたてのぼやはやで、まだまだ一人歩きなどできません。どうか皆さん之力を貸して下さい。名前も「聖陵」となっていますが仮称です。これから成長を願い、厳しい助言、意見をハガキ等でいただけたら幸いです。

同窓会は卒業生同士の輪、卒業生と在校生の輪、他にも色々な輪であるはずです。今まで点線でしかなかった輪をどうか私たちといっしょに手をつなぎ、確かな実線で結びましょう。この同窓会報をそして同窓会そのものを一緒に育てあげてください。よろしくお願いいたします。

編集委員 吉田典子（旧姓高井）第2期生
瀬川 治 第7期生
藤澤弘樹 第9期生

連絡先 〒020-01 岩手県岩手郡滝沢町滝沢字砂込808
盛岡大学内 同窓会事務局
TEL 019(688)5555
FAX 019(688)5577